

国際化教育と地域連携



新学舎の建設や学部移転など、教育環境の充実が進む本学の大学教育について、来年いよいよ50周年を迎える同窓会について、今年4月に就任した小林学長、小川同窓会会長、脇田同窓会副会長が語り合いました。



来年の新学舎の完成と地域連携について

名古屋学院大学の「新キャンパス・大宝学舎の整備が進んでいます。この新学舎について伺えますでしょうか。」

小林学長(以下、学長) 新キャンパスとなる大宝学舎「GLOBAL LINKS(以下、グローバルリンクス)」は、名古屋キャンパスの白鳥学舎と日比野学舎の中間に位置しており、2018年9月の竣工を予定しています。このグローバルリンクスは、「大学・地域・世界をつなげ、学びの輪を広げる」をモットーに、語学学習と異文化交流をコアとしたグローバル人材育成のための新しい学びの場を目指しています。

「ご承知のとおり、本学は、「名古屋英和学校」に始まるキリスト教主義の学校として、1964年の開学時より、経済学部でありながら英語や海外留学に力を入れるなど、他大学に先駆けて国際性豊かな人材の育成に取り組んできました。

名古屋キャンパスを開設してからすでに10年が経ちました。グローバルリンクスは、瀬戸キャンパスでの50年も含め、本学がこれまでに築いてきたノウハウを注ぎ込んだ、NGUらしい教育・学習環境にしたいと考えています。建物の特色としては、従来のよ



同窓会 会長
小川 博司



名古屋学院大学 学長
小林 甲一



同窓会 副会長
脇田 芳徳

なかつちで異文化コミュニケーションができる、非常に国際性豊かな空間になるはずですが、外国語学部と国際文化学部はもろもろの学部にとっても重要なテーマです。ぜひすべての学生に利用してもらいたいですね。

小川同窓会長(以下、会長) 大変充実したキャンパスになりますね。今から完成が楽しみです。大学の存在は地域にとっても意義のある存在です。地域との関わりについてどうお考えでしょうか。

学長 昨今、「グローバル」と言われますように、グローバルはそのままローカルでもあります。本学では、瀬戸での実績をもとに、いま名古屋キャンパスでも地域連携の事業を盛んに行っています。熱田区にある唯の大学として、グローバルリンクスを機にこれまで以上に地域貢献を大切にしていくつもりです。また、文部科学省が実施する「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」に採択され、名古屋市や瀬戸市の皆さんと一緒に地域を盛り上げる「プロジェクト&N」という取り組みを行っています。20を超えるプロジェクトが進行中で、その一つに「熱田ブランド戦略プロジェクト」というものがあります。熱田の歴史や文化など地域資源を発信したり、ロゴマーク

を作るなど、熱田区をブランディングしていく取り組みです。大宝学舎には社会連携センターも設置し、社会に向けた地域情報を発信していく予定です。グローバルリンクスを市民の方にもぜひ利用していただき、地域とともに学べる場にしていきたいと考えています。

名古屋キャンパスのある熱田区は、中部国際空港から名古屋への人口である金山総合駅や国際会議場があり、今後は名駅に続く再開発エリアとして注目されます。また、この10年で、郊外から名城線への乗換などで金山を利用する若者がずいぶん増えたようです。成長する名古屋都市圏に立地する大学としてリーダー的役割を果たしていければうれしいですね。

2019年4月には、リハビリテーション学部の名古屋キャンパスへの移転が予定されています。

学長 理学療法士の人材育成に対する社会的ニーズの広がりと、リハビリテーション学部の将来を考え、名古屋キャンパスへの移転を決めました。日比野学舎を講義棟としてリニューアルし、大宝学舎の敷地内に新たに実習棟を建設する予定です。実は私立大学では、名古屋市内で初めてのリハビリテーション学部となります。

来年、同窓会とともに瀬戸キャンパスも開設50周年を迎えます。リハビリテーション学部の移転後はスポーツ健康学部だけになります。自然豊かで施設・設備も充実した瀬戸キャンパスは、健康やスポーツを学ぶ学生たちにとって最適の環境だと思えます。瀬戸キャンパスのよりよい活かし方が今後の課題です。

50年間、本学を存続させてくれたのは瀬戸キャンパスです。私はよく「瀬戸に対する恩返しが大切だ」と言っています。特に、多くの同窓生の方にとって青春時代を過ごした大切な場所なので、そういう皆さんの想いも大学としてしっかりつないでいきたいと考えています。

新学舎の設置、学部移転と名古屋学院大学も転換期を迎えているということですね。今後の目標など伺えますでしょうか。

学長 現在、リハビリテーション・経済現代社会の三学部が、名古屋市立大学・名古屋工業大学と連携して「地域と育む未来医療人」なごやかモデル」事業に参画しています。これは、文部科学省の選定のもと、超高齢社会の到来に備えて高齢者の暮らしを支える医療人材の育成をめざす取り組みで、超高齢化が進む名古屋市の鳴子団地をモデルに大きな成果を上げています。今後は、瀬戸キャンパスの将来を見つめつつ、名古屋を拠点とし「名古屋」を掲げる大学として、名古屋のこれからのリードしていけるようなこともしっかりとやっていきたいと思っています。

50周年に向けて同窓会の取り組み

50周年に向けて同窓会の取り組み

来年、同窓会が50周年を迎えます。取り組みについて教えてください。

会長 昨年、50周年のための準備委員会を立ち上げました。今年から実行委員会として活動しています。記念式典の開催は2018年秋を予定しています。現在は式典やイベントなどの素案が決まり、1年後

を目指して準備しているところです。40年の時は約500名の同窓生にお集まりいただきました。今回はそれ以上のご参加を想定しており、大きな会場で行うことを考えています。講演者の依頼なども進めています。

質実共に盛会になりそうですね。同窓会としての思いをお聞かせください。

脇田副会長 今回は50周年という大きな節目ですので、同窓生の方の記憶に残る式典・祝賀会にしたいと考えています。たくさんの方にご参加いただき、懐かしい方とお会いできることを我々も大変楽しみにしています。同窓生は現在4万6500人いますが、住所変更届がなく、連絡の取れない方が約1万人いらっしゃいます。来年の50周年式典のお知らせについては、同窓会報のほか新聞広告なども使って、広くアナウンスすることを考えています。ぜひ大学と一緒に協力してやっていきたいですね。

学長 そうですね、大学としてもお手伝いしていきたいと思えます。同窓会が50周年ということ、名古屋学院大学が伝統のある大学であることを、改めて皆さんに伝えられるよい機会になります。来年の秋でしたらグローバルリンクスもちょうど完成しています。この機会にぜひ、同窓生の皆さんにも新学舎をご覧いただければと思います。

会長 それはいいご提案ですね！同窓会50周年記念イベントの一つとして、大宝学舎の見学会をやってみたいですね！

一同 楽しみですね！

本日はお忙しいなか、ありがとうございました。司会進行…中川広報委員長